

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名		一般国道168号 熊野川・本宮道路	事業区分	一般国道	事業主体	和歌山県										
起終点		自：和歌山県東牟婁郡熊野川町東敷屋 至：和歌山県東牟婁郡本宮町大津荷	延長		2.6 km											
<p>事業概要</p> <p>国道168号は、和歌山県新宮市を起点として大阪府枚方市に至る、延長約176kmの幹線道路である。そのうち、五條市から新宮市までの延長約130km間は、高規格幹線道路と一体となった道路ネットワークを構築し、地域構造の強化に寄与するため、平成6年12月に地域高規格道路「五條新宮道路」として計画路線の指定を受けている。熊野川・本宮道路は、その一部区間として形成するとともに、線形不良、幅員狭小及び異常気象時通行規制区間の解消を目的としたバイパスの整備を行う。</p>																
S63年度事業化		H - 年度都市計画決定 (H - 年度変更)	S63年度用地着手		H 元年度工事着手											
全体事業費		約 84 億円	事業進捗率		67%	供用済延長										
計画交通量		5,500 台/日														
費用対効果 分析結果	B / C	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年 平成15年										
	(事業全体)	23 / 98 億円		196 / 196 億円												
	(残事業)	事業費：21 / 95億円 維持管理費：3 / 3億円		走行時間短縮便益：186/186 億円 走行費用減少便益：9/ 9 億円 交通事故減少便益：1/ 1 億円												
<p>事業の効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置づけあり） ・災害への備え（緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけあり（第1次）） など5項目に該当 																
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>国道168号（五條・新宮間）整備促進協議会より、地域高規格道路五條新宮道路の整備促進の要望を受けている。（平成15年11月）</p>																
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</p> <p>昭和63年度に延長4.3km事業化され、平成13年度には供用区間を除いた延長2.6km間が地域高規格道路として整備区間の指定を受け、用地買収および本工事を促進している。</p>																
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等</p> <p>平成14年度に熊野川1号トンネルが完了し、平成15年度より熊野川2号トンネルに着手している。</p>																
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</p> <p>平成15年度に用地買収を完了しており、早期供用を目指し本工事を促進する。</p>																
<p>施設の構造や工法の変更等</p> <p>施設の構造や工法の変更は特にないが、建設残土の工事間流用や再生材利用等によりコスト縮減に努めている。</p>																
対応方針		事業継続														
<p>対応方針決定の理由</p> <p>事業は順調に進捗しており、広域ネットワークとして地域高規格道路の位置付けがなされていることから、必要性及び効果が高いと判断しているため。</p>																
<p>事業概要図</p> <p>熊野川・本宮道路 L=2.6 km (5,500台/日)</p> <p>通行規制区間 L=16.2km 連続雨量180mm</p> <p>至五條市</p> <p>本宮町</p> <p>熊野川町</p> <p>至新宮市</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>うち供用中</td> </tr> </tbody> </table>							凡 例			供用中		事業中		再評価箇所		うち供用中
凡 例																
	供用中															
	事業中															
	再評価箇所															
	うち供用中															

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。